

	終値	(前日比)		終値	(前日比)
NY DOW	44,156.73	130.92	日本2年債	0.6900%	0.0200%
NASDAQ	20,009.34	252.56	日本10年債	1.1900%	0.0100%
S&P	6,086.37	37.13	米国2年債	4.2997%	0.0265%
日経平均	39,646.25	618.27	米国5年債	4.4376%	0.0463%
TOPIX	2,737.19	23.69	米国10年債	4.6120%	0.0396%
シカゴ日経先物	39,865.00	535.00	独10年債	2.4985%	0.0215%
ロンドンFT	8,545.13	▲ 3.16	英10年債	4.6305%	0.0420%
DAX	21,254.27	212.27	豪10年債	4.4680%	0.0510%
ハンセン指数	19,778.77	▲ 327.78	USDJPY 1M Vol	9.45%	▲0.17%
上海総合	3,213.62	▲ 29.00	USDJPY 3M Vol	9.42%	▲0.23%
NY金	2,770.90	11.70	USDJPY 6M Vol	9.58%	▲0.14%
WTI	75.44	▲ 0.39	USDJPY 1M 25RR	▲0.81%	Yen Call Over
CRB指数	309.38	0.52	EURJPY 3M Vol	9.55%	▲0.17%
ドルインデックス	108.17	0.11	EURJPY 6M Vol	9.67%	▲0.18%

東京	東京時間のドル円は155.73レベルでスタート。トランプ米大統領が「中国から輸入品に対し10%の追加関税賦課する事を検討している」と明らかにすると155円台後半まで上昇も、その後は伸び悩む。午後はじり高に推移し、155.88レベルでクロス。
ロンドン	ドル円は155.88レベルで始まり、155.55から156.12の間で取引され、155.82レベルでニューヨークに渡った。1月24日金曜日の日銀会合を前に市場は閑散であった。12月の英公的部門純借入額は178億ポンドの赤字で、予想の142億ポンドを上回った。ポンドドルは1.2343レベルでオープン。ポンドは対ドルでは統計発表に反応しなかった。ポンドドルは1.2312から1.2376にかけて取引され、1.2357レベルにてニューヨークに渡った。
ニューヨーク	海外市場のドル円は155円台半ばでスタート。トランプ米大統領が「中国から輸入品に対し10%の追加関税賦課する事を検討している」との認識を示した事や、前日に発表された複数の大手IT企業による人工知能への大型投資計画を好感した堅調な日本株の展開を受け、ドル円はじり高で推移し、155.82レベルでNYオープン。本日は特段注目の経済指標の発表を予定していない中、米金利の上昇を横目に買いが優勢となり、156.71まで上伸する底堅い推移。午後は買い一巡となり、156.40付近まで反落し、156.52レベルでクロス。一方、海外市場のユーロドルは1.04台前半でスタート。独金利の上昇を背景とした買いが先行し、1.0457まで上昇。その後は買い一巡となり、1.0439レベルでNYオープン。午前中は先述の米金利の上昇を受けたドル買い地合いが重しとなり、1.0410付近まで下落する軟調な推移。午後も1.0410付近を中心とした上値重い推移が続き、1.0410レベルでクロス。

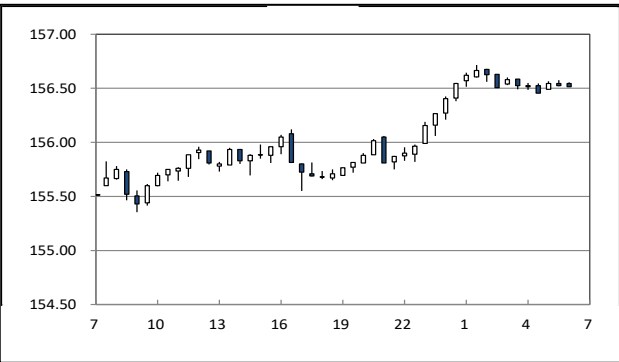
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
1月22日	19:30	欧	ノット・オランダ中銀総裁 講演	景気刺激策に踏み切る必要があるとは確信していない

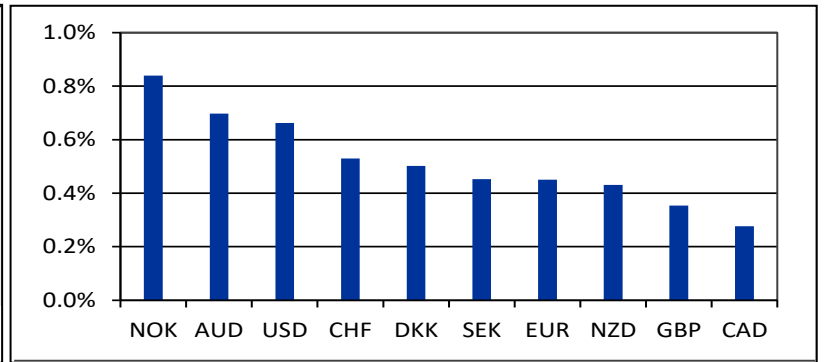
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
1月23日	08:50	日	貿易収支	12月 -¥68.5b -¥110.3b
	22:30	加	小売売上高(前月比)	11月 0.2% 0.6%
	22:30	米	新規失業保険申請件数	18-Jan 220k 217k
1月24日	00:00	欧	消費者信頼感・速報	1月 -14.1 -14.5

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	155.50-157.50	1.0350-1.0450	162.00-164.00

【マーケット・インプレッション】

昨晚の海外市場におけるドル/円相場は、155円台後半から156円半ば近辺まで水準を切り上げた。欧州時間は、欧州株高等を背景にユーロ買いが優勢となり、ユーロ/円の上昇に連れてドル/円も一時155円台後半から156円台前半まで上昇するも、勢い続かず一服後は155円半ば近辺まで反落。NY時間は、米長期金利の上昇を横目にドル/円は156円台後半まで上昇、終盤には156円半ばに小緩んで取引を終えた。また、この日発表された米12月景気先行指数は前月比低下したが相場への影響は限定的だった。本日のドル/円相場も引き続き156円台を中心に底堅い推移を予想。昨日は、156円台前半で伸び悩む場面が幾度と見られたが、米長期金利の上昇などを背景に結局は155円台から156円台に水準を切り上げており、ドル買い優勢の相場展開が継続しそうだ。一方で、明日に日銀による金融政策の発表を控え、追加利上げが織り込まれる中、上値も限定的となるのではないかと見られる。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。